OHDSI APAC network studyについて

慶應義塾大学病院　臨床研究推進センター　ネットワーク支援部門　部門長
慶應義塾大学医学部　血液内科　専任講師

松木　絵里

背景

- これまでOHDSI APAC symposiumに合わせて、開催国を含め、APAC studyが実施されてきた
- APAC studyの実施内容についての詳細は現時点で特に規定はない
- APAC studyをOHDSI APAC 2027で実施する目的として、日本国内でのOHDSIの周知度を高めるため、OMOPを用いた研究成果を示していくことで、より多くの人に知ってもらうことに意義があると考える
- 一方で、国内で十分にOHDSI studyの経験者に限りがあることから、日本人PIに対し、他のAPACメンバーからの支援が得られることでの成功体験が得られると望ましい
- 日本のデータも含めた研究とすることでより価値が高まると考える

OHDSI network studyの検討

- OHDSI APAC 2027に向けてのnetwork study
- Oncology領域を想定
- 病名・処方（・可能であれば検査値（主要なもの））を活用した内容を想定
  → 日本からのデータが含められる可能性を考えると、病名・処方が中心となると考える
- 案1:慢性リンパ性白血病の疫学と治療選択の国際比較
- 案2:悪性リンパ腫のサブタイプ別の疫学調査並びに頻度の多い疾患（DLBCL, FL, 等）に対する治療比較（二重特異性抗体やCAR-T細胞療法の普及度合いを比較する）

課題

- 今後の進め方
- APAC全体への呼びかけ
- 日本国内データについての協力依頼
- その他テーマ募集等